

『ベン・イズ・バック』 原題 Ben Is Back 2018



© 2018- BBP WEST BIB, LLC

映画批評

『ベン・イズ・バック』 原題 Ben Is Back 2018
～オピオイド依存症の息子を更生させる母の闘い
塚田三千代

「It's on you. お前のせいだ」、これはベンが連れ去られた愛犬を探し出すために心当たりの家を1軒ずつ尋ねていく途上で、最初に尋ねた元ガールフレンドの父親がベンに向かって怒鳴った言葉です。ここからまだ明るみに出ていない薬物まわしの経路が明らかになっていきます。社会福祉施設に入って再生しようとしてもしきれない息子ベンを母親や民間支援者がささえるのですが…

アメリカ社会では現在、鎮痛薬(オピオイド)の依存症が深刻なレベルになって、その数値は毎日、発表されて警鐘されています。治療のための投薬が過剰になり、強度な麻薬の売買に繋がるケースを本映画は、'social issues' のメッセージとして伝えています。

母ホリーをジュリア・ロバーツ、息子ベンをルーカス・ヘッジズが熱演して、切実なる心情を満たします。(m.tsukada 2019/4/3)



↑ 娘 Ivy が指揮する聖歌合唱を聞く母



↑ Ivy が指揮する聖歌合唱を聞く兄 Ben と母



↑ Ben の実父の墓の前で、母 Holly と Ben



↑ 誘拐された愛犬の行方を尋ねる Ben



↑ 愛犬だけが盗まれたことに唖然とする Ben と Ivy



↑ 母 Holly の再婚した夫 Neal と Ben の妹 Ivy



↑ Ben の挙動を見張る妹

【映画情報】

製作年 2018 年 / 製作国アメリカ / 配給 東和ピクチャーズ / 提供:カルチュア・パブリシャーズ、邦東和、TV 東京 / 上映時間 103 分 / 映倫区分 G /

スタッフ: 監督 ピーター・ヘッジズ / 製作 ニーナ・ジェイコブソン他 /

キャスト: ジュリア・ロバーツ: 母ホリー / ルーカス・ヘッジズ: ベン /

キャスリン・ニュートン: 妹アイヴィー / コートニー・B・バンス: 義父ニール /

© 2018- BBP WEST BIB, LLC

2019 年 5 月 24 日より TOHO シネマズ他全国ロードショー



研究発表事例

II-1)

映画映像 ドラッグ依存症の息子と家族 (母/父、妹、支援者) コミュニケーション
『ベン・イズ・バック』 Ben is Back 2018



①

©2018 TONKA PICTURES

© m. tsukada. All rights reserved. 2018.

◆① クリスマス・イブの朝、依存症回復途上の息子ベンが突然、リハビリ施設から無断で帰宅した。その夜、家族がそろって地元の教会へ出かけます。そして、妹 Ivy が指揮する聖歌合唱を聞いているところです。

◆① 妹 Ivy は、Ben の突然の帰宅に不信感を抱いて、Ben の挙動を見張っています。

◆① 母 Holly の再婚した夫 Neal と Ben の妹 Ivy が、警察の協力なしで Ben と Holly が愛犬の行方を探すのを心配して電話で連絡しあっている映像です。

II-2)



◆② Ben の実父の墓の前で、毅然と言い放す母 Holly に、Ben はドラッグ依存症を克服したと固く誓っている場面です。


◆③ 聖歌合唱を聞きに行った留守の間に、愛犬を誘拐されます。警察の協力なしで愛犬の行方を探して、Ben が心当たりに 1 軒ごとに尋ねて行きます。母 Holly が Ben に付き添って行きます。

これらの映像で、ドラッグ依存の息子と母 コミュニケーション回路の《noeuds》を観れます。

II-3) ベンと家族の居住地

資料 ベンと家族の居住地は、NEW YORK 北部
『ベン・イズ・バック』 Ben is Back 2018

©2019 NEW YORK



NEW YORK 北部は、花咲く春、
温暖な夏、紅葉の秋、雪の冬、
ワイン、ウォーター&ワンダース
(Wine, Water and Wonders) として知られる

©m.tsukada. All rights reserved.2019.

Ben が住む NEW YORK 州北部はワイン・ベルトで知られる風光明媚で静かな住宅地です。

この N.Y. 郊外の居住地周辺で、隠されていた薬物入手のルートが明らかになっていきます。ベンは愛犬と母の大切なものを取り戻すために、麻薬ディーラ(運び屋/俗語で mule)にならざるを得なくなります。

薬物/ドラッグについて調べると、次のことが分かります。

ケガの治療用 鎮痛薬(オピオイド/opioid)の過剰投薬が原因で、薬物依存症になり、リハビリ施設へ入所を繰り返し、最後に、麻薬の売買人(dealer (俗)mule)に転落する。

マリファナを好奇心で服用して、覚醒剤として多量に服用するようになり、ヘロイン、さらにメタンフェタインに進む。メタンフェタインは有害薬物。暴力を振るったり、幻覚症状を引き起こしたりする。中枢脳細胞を破壊して死にいたる事が検証されている。しかし、マリファナは、PTSD の治療薬として有効である。